



2019年12月期の連結業績ポイント

売上高

610億73百万円

(百万円)

59,375 62,413 61,073

第134期 第135期 第136期

前期比

2.1% 減

営業利益

62億19百万円

(百万円)

8,516 8,449 6,219

第134期 第135期 第136期

前期比

26.4% 減

経常利益

62億43百万円

(百万円)

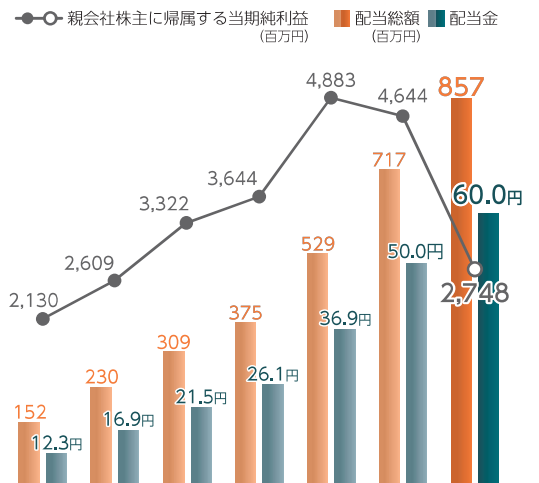
8,629 8,512 6,243

第134期 第135期 第136期

前期比

26.7% 減

親会社株主に帰属する当期純利益と配当金の推移



※配当金は2018年1月1日を効力発生日とした株式分割後(普通株式1株につき1.3株に分割)の値に調整しております。

2020年12月期の見通し

売上高

620億00百万円

前期比

1.5% 増

営業利益

63億00百万円

前期比

1.3% 増

経常利益

63億00百万円

前期比

0.9% 増

親会社株主に帰属する当期純利益

33億00百万円

前期比

20.1% 増

配当金

60円

前期比

増減なし

事業の再構築を積極的に推し進め 「真のグローバルサプライヤー」を 目指してまいります。

代表取締役 社長執行役員 **前田 龍一**

Q 第136期(2019年12月期)について 事業の概況をご報告願います。

A 当期における世界の経済状況は、米中の貿易摩擦や英国のEU離脱など、不透明感に包まれ、全体として厳しい状況でした。自動車業界も、牽引役の一つであった中国が小型車に対する補助金の打ち切りもあって売れ行きを鈍化させるなど、世界的に芳しくない状況でした。

このような中、当社グループは、中期経営計画「NICHIRIN Growth Strategy 2020 (以降NGS 2020)」フェーズIIのもと、目まぐるしく変化していく世界経済の状況に対処すべく、グローバル企業としての足固めに取り組みました。

当期における事業の概況をセグメント別にご報告しますと、まず日本は、北米子会社向けの部品供給が減少しましたが、中国・アジア子会社向けの設備売上の増加と、国内における軽自動車向け部品供給の増加により、売上高・営業利益ともに前期の水準を維持しました。

北米は、日系自動車メーカーが得意とするセダン車の需要減が続いています。量産を開始した新商品のIHX(カーエアコン用内部熱交換器)が着実に売上を伸ばしましたが、主力製品であったパワーステアリング用ホースの減少をカバーするには至りませんでした。また、米中貿易摩擦による中国材料の追加関税、メキシコでの最低賃金の大幅増といった要因も大きく影響し、苦戦を強いられました。

景気減速傾向にある中国は、新車販売台数が前年を下回り、加えて、北米向けを中心としたエアコン用管体の輸出も減少傾向にあることから、全体として売上が伸び悩む結果となりました。また、上海日輪自動車配件有限公司から蘇州日輪自動車配件有限公司への生産移管に関する準備費用が増加し、利益面は減少しました。

アジアは、全体として中国の景気減速の影響を受けて経済成長が鈍化傾向でしたが、ABS(アンチロック・ブレーキ・システム)義務化による二輪車用ブレーキホースの販売増に加え、フューエルホースも堅調に推移しました。

自動車の需要低迷が続く欧州ですが、生産台数の減少に加え、英国のEU離脱の影響で欧州事業の再編を余儀なくされ、ニチリン ユー・ケー・リミテッドの生産停止(2020年6月末予定)に伴う特別損失や新モデル立ち上げに伴う特別費用が発生し、業績はふるいませんでした。

以上の結果、当期のグループ連結業績は、売上高・利益

面ともに前期を下回ることとなりました。このような状況下ですが、株主様への配当金に関しては、当初の予定通り、期末を1株当たり30円とし、中間の30円と合わせ年間60円とさせていただきます。前期と比較すると年間10円の増配となります。

Q 企業トップとして第136期を どのように評価されていますか。

A 業績面では苦戦した1年であったと思いますが、米中貿易摩擦や英国のEU離脱等により、混迷が続ける世界情勢への対応として、現在、進めている事業の再構築は着実に進展したと評価しております。

具体的に申し上げますと、中国では、上海日輪自動車配件有限公司の生産停止と蘇州日輪自動車配件有限公司への生産移管を行いました。もともと上海の工場は建て増しを繰り返してきたことにより、生産性の向上を図りにくいという課題を抱えていました。その受け皿として昨年5月に竣工した蘇州の工場は、子会社の中でも最大規模であり、これまで以上に生産力の増強と生産性の向上を図ることができます。

また、経済成長が目覚ましいベトナムでは、二輪車用ブレーキホースの第2ラインが稼働しました。インドネシアでは、中国から生産移管したゴム・樹脂ホースの生産準備が整いました。このインドネシアの生産ラインが稼働すれば、中国での米国向けの生産で課題となっていた人件費と関税問題を一気に解決できるようになります。

アジアにおける中国に次ぐ巨大市場のインドに関しては、昨年、現地のインペリアル社と合併会社を設立しました。組立ラインの生産体制を整え、今年から稼働します。これでABS義務化による二輪車用ブレーキホースの需要増への対応が整いました。また、これまでタイから製品を輸入しており、タイパーツの下落により為替差損が課題となっていました。これも解決できる運びとなります。

日本では、新しい工法・仕様の開発を進めており、軽量化を目的に、金属から樹脂に置き換えた製品を開発し、実用化に向けて取り組んでいます。

自動車の売れ行き鈍化や英国のEU離脱など、課題の多い欧州に関しては、根本的な見直しが必要と考え、昨年9月に「欧州経営改善室」を設置しました。課題解決に向けて最適生産に向けた生産移管、自動化ラインの見直し、リード

「NICHIRIN Growth Strategy 2020」

■ビジョン

目まぐるしく変化する時代のニーズを的確にとらえ、持続的に「新たな価値」を創造し、提供し続ける企業集団

■2020年連結経営目標(単位:百万円)

□ 売上高	62,000以上
□ 営業利益	6,300以上
□ 経常利益	6,300以上
□ 親会社株主に帰属する当期純利益	3,300以上

タイムを考慮して東欧での請負化を検討する等の改善に取り組み、早期V字回復を目指します。

Q 中期経営計画「NGS 2020」の 進捗状況をご報告願います。

A 中期経営計画「NGS 2020」は、2015年からスタートしており、最初の3年間をフェーズIとし、基盤固めに努めました。2018年からの3年間はフェーズIIで、グローバル企業としての足固めを骨子としております。

これまで5年間の進捗につきましては、改革領域である【事業】【しくみ】【人】の順で、ご報告いたします。

【事業】の「成長分野の強化・拡大」では、アジアを中心に二輪車の需要増に着目し、情勢を見極めたうえでその国や地域に生産拠点を設けるといった戦略をとってきました。インドに生産拠点を設けたのもその一つであり、今後は、インドの合併会社によるアフリカ、隣国のバングラデシュなどへの拡大を視野に入れています。さらに東南アジアの拠点から欧州への供給拡大を具体化させたいと考えております。

「新たな事業の創造」では、先程少しふれた金属部品の樹脂化がその一例です。これにより、軽量化・コストダウン、そしてリサイクルも可能になります。また昨年、モノづくりと開発を一体化したグローバルイノベーション推進部を立ち上げました。採算性・販売価格を前提に開発を行い、トップ判断で市場投入のスピードアップを図るのが狙いです。同部門では、樹脂・カーボン・金属という3種類の3Dプリンターを駆使し、机上で議論を重ねるよりも、先ず形にしてみる。そうすることで素早い判断が可能となります。顧客への試作納品やプレゼンも短期間で行え、顧客満足にも寄与しています。

「収益構造の改革・利益体質の強化」では、新工法によるモノづくり改革と仕入の改革に取り組んできました。とくに仕入の改革は、昨年、購入品の改革プロジェクトを立ち上げ、全社をあげて推進しており、効果も徐々に出てきております。

【しくみ】に関しては、グローバルな標準システムの統一化がかなり進みました。財務管理に加え、生産管理も行っており、インドネシアでの成功体験をもとに、海外子会社の統一化を加速させているところです。

【人】の改革は、グローバル人材の育成につきます。姫路工場においては20名以上の外国人材を採用しており、

■「改革領域」と「6つの全体戦略」

・事業(Structure)の改革

- ①成長分野の強化・拡大
- ②新たな事業の創造
- ③収益構造の改革・利益体質の強化

・しくみ(System)の改革

- ④グローバルな経営管理改革

・人(Skill)の改革

- ⑤グローバル人材の確保と育成

・企業価値向上(Business Value)

- ⑥信頼される企業活動、社会への貢献により、企業価値を高める

身近に国際化を感じられるようになりました。日本人従業員に関しては、毎週、英会話が学習できる仕組みを作っています。最近、ローカルスタッフと直接、英語で意思疎通をはかれるようになりつつあり、一歩進んだという実感ももっています。

Q 第137期(2020年12月期)の 見通しをお願いいたします。

A 米中の貿易摩擦の行方が依然として不透明であり、加えて新型コロナウイルスが、中国はもとより国際経済にもどの程度の影響を与えるのかが大きな懸念材料です。

当社グループとしては、米国と欧州の事業再編に着手する計画で、より効率的な運営と生産体制を整えたいと考えております。とくに欧州については、黒字化を目標として注力いたします。また、新型コロナウイルスにより中国では様々な製造業がストップしましたが、危機管理の側面から、当社グループも生産の一極集中を避けるよう、分散型の生産体制の構築に着手してまいります。

業績面については、増収増益を目指し、それを実現させる決め手の一つとして、新製品の市場投入、開発スピードの向上に努めていきたいと考えております。

Q 最後に株主様へのメッセージを お願いいたします。

A 当社グループは、「真のグローバルサプライヤー」を目指し、様々な取り組みを進めております。2018年、19年とも55億円超と、老朽化への対策や事業の再構築のための大規模な設備投資を続けており、20年も30億円超を計画しています。これらの投資は、当然のことながら将来を見据えてのものです。

また、グローバルな事業展開には、地域ごと国ごとに合わせたモノづくりや販売方法が必要です。そのためには、従業員一人ひとりが国際感覚を身に付けていかなければなりません。業績は外部要因で左右される側面がありますが、人材さえそろっていれば事業は継続でき、また、継続していくことに企業としての社会的責任もあると考えております。

株主様におかれましては、これまで以上にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

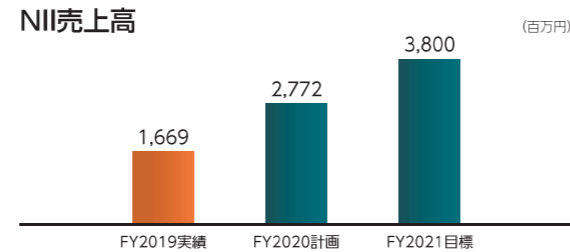
Topics 1

販路拡大に向けたインド事業の強化

会社名	ニチリン インペリアル オートパーツ インディア プライベート リミテッド (略称：NII) NICHIRIN IMPERIAL AUTOPARTS INDIA PRIVATE LIMITED
所在地	ハリヤナ州ファリダバード
資本金	258百万ルピー (約4億500万円)
従業員数	78名 (2019年12月31日現在)
新工場 土地面積	8,136㎡
延床面積	5,376㎡ (工場：4,822㎡ 事務所：554㎡)
資本比率	当社：60%、インペリアル社：40%
設立	2019年4月
生産品目	二輪/三輪/四輪ブレーキホースAssy 二輪フューエルホースAssy 四輪エアコンホースAssy



2019年4月、当社のインド子会社と現地法人インペリアル社との間で合併会社（NII）を設立しました。2020年1月に工場・事務所の改装工事が完了し、フューエルホースのアセンブリを行っています。現在、4月からの本格稼働に向けてライン構築に取り組んでいます。今後は、インドを皮切りにアフリカ・ヨーロッパのローカルメーカーへの販路開拓にも注力してまいります。



Topics 2

金属3Dプリンター導入、試作品の開発スピード向上

姫路工場では2012年に樹脂用の3Dプリンターを導入し、治具の内製化やクイックカプラの開発に取り組み、現在では自社開発のクイックカプラを月産約40万個生産しております。この実績を糧に、試作品の開発スピードを高めるべく、姫路工場と北米の子会社に金属3Dプリンターを導入しました。もともと、試作金型や治具を製作する場合、外注にて切削加工で対応しており、コストも時間もかかっておりました。これらを金属3Dプリンターで製作することにより、納期の短縮や、製作コストの削減を図り、顧客ニーズに迅速に対応してまいります。

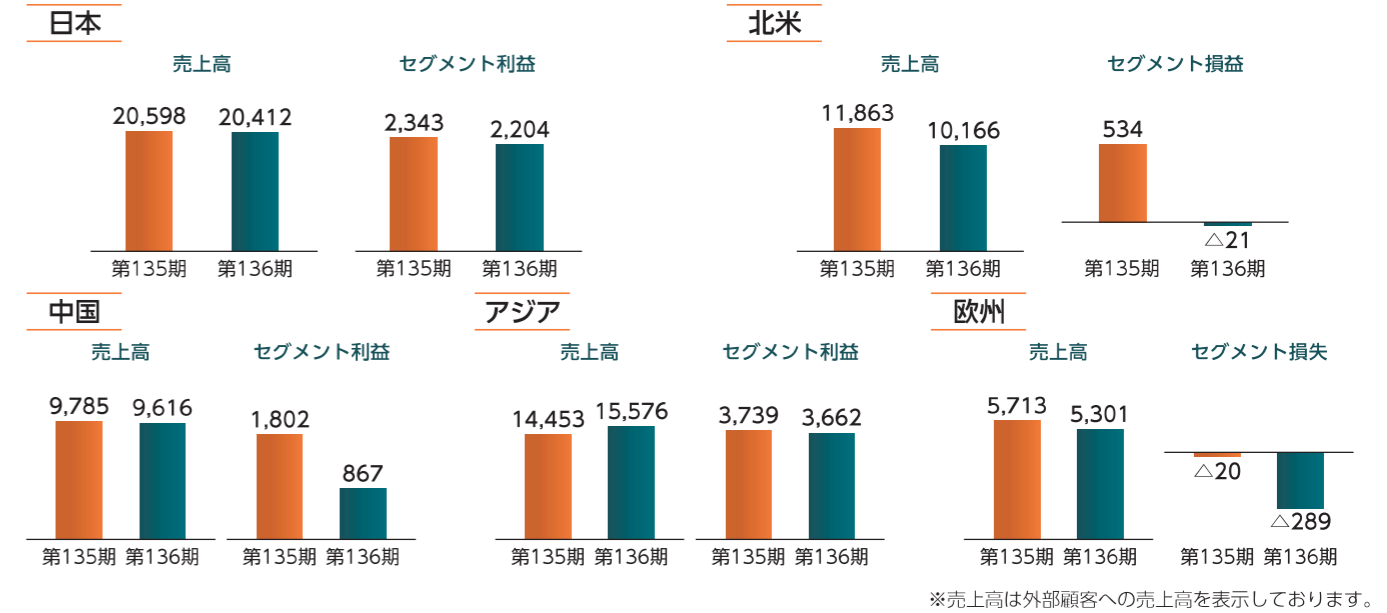


ノズルから金属材料を射出しながら層状に積み上げて造形していく仕様で、複雑な形状にも対応可



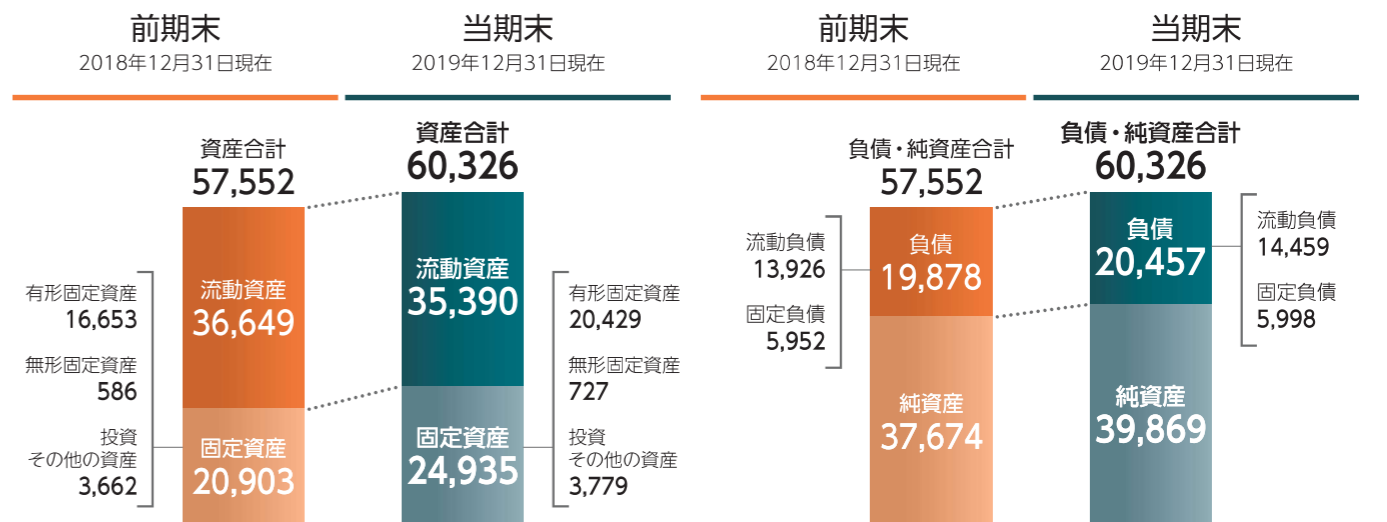
セグメント情報

(単位：百万円)



連結貸借対照表の概要

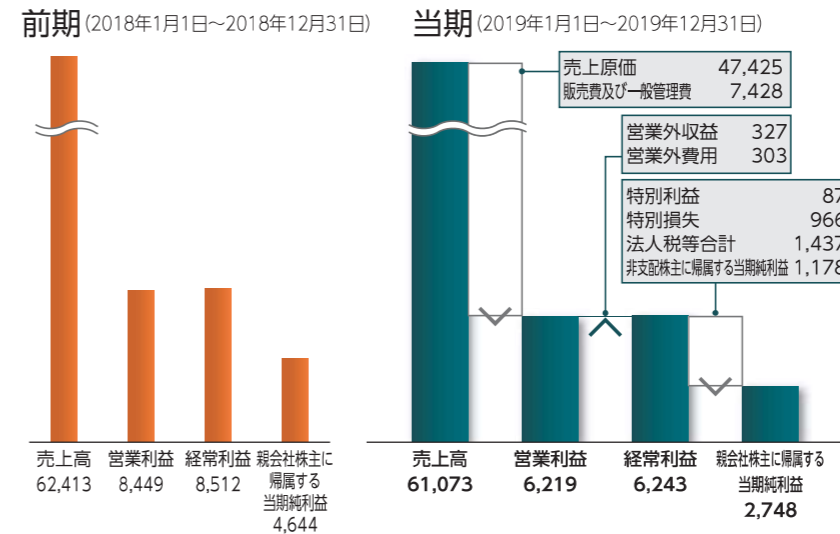
(単位：百万円)



(注) 「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当期首より適用しており、前期末の金額につきましても当該会計基準を遡及適用した数値を記載しております。

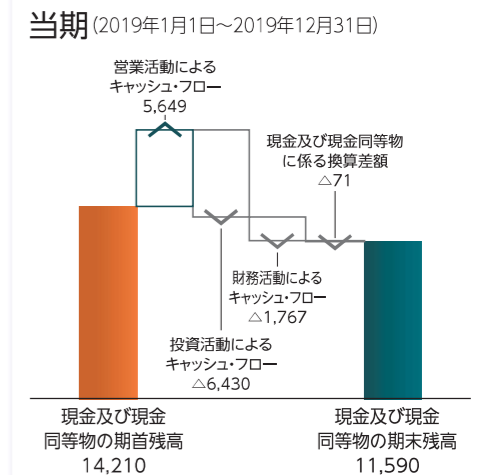
連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



株式の状況

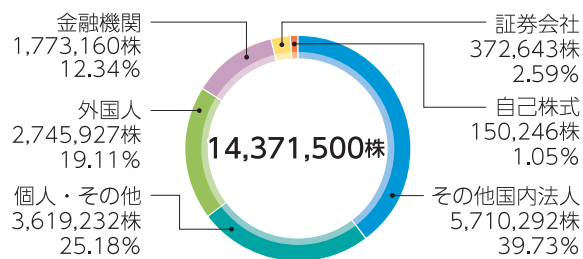
(2019年12月31日現在)

発行可能株式総数	45,760,000株
発行済株式総数	14,371,500株
	(自己株式150,246株を含む)
株主数	6,541名
大株主(上位10名)	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
太陽鋳工株式会社	3,217	22.6
双日株式会社	1,144	8.0
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	697	4.9
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	581	4.1
東京センチュリー株式会社	475	3.3
株式会社みずほ銀行	373	2.6
日本精化株式会社	286	2.0
GOLDMAN,SACHS& CO.REG	231	1.6
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) SUB A/C NON TREATY	213	1.5
みずほ証券株式会社	204	1.4

(注)持株比率は、発行済株式総数(自己株式除く)に対する持株数の割合であります。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月に開催
基準日	毎年12月31日
	その他必要あるときはあらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人および特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
株主名簿管理機関	三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理場所	〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 証券代行事務センター
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次窓口	取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告(当社ホームページに掲載します。) https://www.nichirin.co.jp/ir/denshikoukoku.html ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
単元株式数	100株
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第2部
証券コード	5184
当社ホームページアドレス	https://www.nichirin.co.jp/

- ・住所変更、単元未満株式(1株から99株まで)の買取等のお申出先について株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

会社の概況

(2019年12月31日現在)

創立	1914年(大正3年)5月
設立	1924年(大正13年)3月
資本金	21億5,800万円
本社	〒650-0033 兵庫県神戸市中央区江戸町98番地1 東町・江戸町ビル3階 電話(078)392-1471(代) FAX(078)392-1758
事業所	姫路工場 兵庫県姫路市別所町佐土1118番地 電話(079)252-4151(代) FAX(079)251-2160 東京支社 東京都港区芝浦1丁目3番11号 ニュー芝浦ビル4階 電話(03)5476-8050(代) FAX(03)5476-0338 浜松営業所 静岡県浜松市中区板屋町110番地の5 浜松第一生命日通ビル11階 電話(053)454-3721(代) FAX(053)452-5524 厚木配送センター 神奈川県愛甲郡愛川町中津字桜台4055番地 電話(046)285-2311(代) FAX(046)285-2129

主要な事業内容 自動車用ブレーキホース、パワーステアリングホース、カーエアコンホースなど自動車用各種ホースの製造・販売および住宅関連のホース類等の製造・販売を行っております。

従業員 371名(出向者38名除く)

役員

取締役および監査役

取締役会長	清前	水田	良龍	雄一
代表取締役社長執行役員	谷	田	利	一
取締役専務執行役員	菊	口	秀	員
取締役上席執行役員	曾	元	秀	樹
取締役上席執行役員	曾	我	浩	之
社外取締役	矢	野	一	進
社外取締役	鈴	木	一	史
常勤監査役	橋	本	俊	進
常勤監査役	手	塚	浩	雄
社外監査役	小	野	美	昭
社外監査役	木	村	美	樹

執行役員

常務執行役員	森	川	良	一
上席執行役員	前	田	民	世
上席執行役員	前	田	高	男
上席執行役員	高	谷	元	博
上席執行役員	難	波	宏	成
執行役員	竹	島	淳	司
執行役員	岩	見	文	博
執行役員	高	島	吉	章
執行役員	山	本	和	生
執行役員	中	安	秀	樹

ホームページ紹介

<https://www.nichirin.co.jp/>

当社ホームページでは、IR情報、製品情報や最新トピックスなどの情報を掲載しております。

